

令和7年度 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

上島町立魚島小・中学校

〈小学校の教育目標〉 『よく考え、進んで実行する児童の育成 －自己教育力の育成－』

〈中学校の教育目標〉 『自ら考え、進んで実践する生徒の育成 －自己教育力の育成－』

評価：A=対象の80%以上が肯定 B=対象の70%以上が肯定 C=対象の60%以上が肯定 D=対象の60%未満が肯定

		7 6 年 年 度 度				
項目	評 価 指 標			評 定	評 定	自己評価
教育目標	1	教職員	学校の教育目標の達成に向けて、具体的にに取り組んでいる。	A	A	児童生徒の回答については、昨年度と比べてやや評価が下がる項目が見られた。 本校は小規模校であるため、児童生徒一人一人が自分で考え、行動する機会が多い環境にある。今後は、その良さをより生かせるような手立てを工夫していきたいと考えている。
		児童生徒	「よく（自ら）考え、進んで実行（実践）すること」ができています。	B	A	
		保護者	学校は、「よく考え、進んで実行（実践）する子どもの育成」の実現のために、積極的な取組をしている。	A	A	
		地域	学校は、「よく考え、進んで実行（実践）する子どもの育成」の実現のために、積極的な取組をしている。	A	A	
	2	教職員	「心豊かな児童生徒を育てる」のために、具体的にに取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、全体的な評価に大きな変化は見られなかった。しかし、保護者から「どちらかといえば当てはまらない」という意見が見られたり、地域の記述回答の中には「最近、元気が少なくなったように感じる」といった声が寄せられたりした。 これらの意見を大切に受け止め、児童生徒が学校に来る楽しさをもつてもらうような工夫を、今後さらに充実させていく必要がある。
		児童生徒	学校は楽しい。	A	A	
		保護者	児童生徒は、元気に生き生きと学校生活を送っている。	A	A	
		地域	児童生徒は、元気に生き生きと学校生活を送っている。	B	B	
学力・学習習慣・学習指導	3	教職員	基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、保護者の評価は全体として向上している。一方で、「当てはまらない」と回答した保護者もいることから、引き続き丁寧な取組が必要である。 全国学力・学習状況調査をはじめとする各種調査の数値を基に、客観的に児童生徒の学力を分析し、その結果を指導改善に生かしながら、さらなる学力向上に努めていく。
		児童生徒	学習したことの基礎・基本がわかる。	B	A	
		保護者	児童生徒は、学習したことの基礎・基本がきちんと身に付いている。	B	C	
		地域				
	4	教職員	児童生徒に、発表の仕方や表現力が身に付くよう指導している。	A	A	昨年度と比べ、児童生徒および地域の評価はやや低下し、保護者の評価は向上している。 「学習発表会」など保護者や地域の方に発表にする機会が多い。保護者においては児童生徒の成長が一定程度実感されているものと考えられる。今後は、より質の高い発表を目指し、指導の充実を図っていく必要がある。
		児童生徒	自分の意見や考えをはっきりと伝えることができています。	B	A	
		保護者	児童生徒は、自分の意見や考えをはっきりと伝えることができています。	A	B	
		地域	児童生徒は、人前でも自分の意見や考えをはっきりと伝えることができています。	B	A	
	5	教職員	指導法や指導体制の工夫・改善に努め、分かる授業づくりに取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、評価に大きな変化は見られなかった。 本校は少人数であることから、個に応じた指導ができることが強みである。その強みを生かし、今後も「分ける・できる・楽しい」授業の実現に向けて、さらなる授業改善に努めていく。
		児童生徒	先生たちは、分かりやすく教えてくれている。	A	A	
		保護者	学校は、楽しく分かりやすい授業づくりに努めている。	A	A	
		地域				
	6	教職員	効果的な宿題の提示や自主学習の在り方など、具体的な指導に取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、保護者の評価はやや低下している。 学習習慣の確立は、年度当初から本校の課題である。今年度は寮での勉強会を実施していただいたこともあり、少しずつはあるが学習習慣の定着が見られる。今後はさらなる改善に向けて取組を検討し、家庭や寮との連携を一層深めていく必要がある。
		児童生徒	小学生は宿題や自主学習を20分(1年)・30分(2年)・40分(3年)・50分(4年)・60分(5年)・70分(6年)、中学生は自主学習を60分以上以上している。	C	C	
		保護者	児童生徒は、家庭学習の習慣が身に付いている。	C	B	
		地域				
学校行事	7	教職員	学校行事や体験的な活動は、創意工夫・改善できている。	A	A	全体として、良好な回答が得られた。 行事を実施する際には、それが単なる活動に終わらないよう、行事の意義を伝える事前指導や、成長を見取るための事後指導を行っている。また、児童生徒だけでなく教職員も、地域の方への感謝の気持ちを大切にしながら取り組んでいく必要がある。
		児童生徒	学校行事や、学校での色々な体験活動には満足している。	A	A	
		保護者	魚島小・中学校の学校行事（運動会や合同発表会等）は、充実している。	A	A	
		地域	魚島小・中学校の学校行事（運動会や合同発表会等）は、充実している。	A	A	
心の教育	8	教職員	道徳、学級活動、人権集会などの充実にも努め、自他の生命尊重や人権意識の高揚を図っている。	A	A	保護者の回答の中に「どちらかといえば当てはまらない」という意見が見られた。 本校は、大勢の離島留学生を受け入れており、入学後に初めて出会う仲間が多いという特徴がある。今後は、少人数であるという強みを生かし、一人一人の様子を丁寧に見取りながら、保護者が安心できる環境づくりをさらに充実させていく必要がある。
		児童生徒	まわりの人に親切にしたり、仲良くしたりできている。	A	A	
		保護者	学校は、児童生徒の人間関係づくりに努めている。	A	A	
		地域				

進路指導	9	教職員	将来の夢や希望について話したり、考えたりする機会を設けている。	A	A	教職員および保護者の評価は概ね良好であった。一方で、児童生徒の回答の中には「どちらかといえば当てはまらない」という意見も見られた。 今後は、職場体験等の活動の実施にとどまらず、児童生徒が自らの将来像を具体的に描けるよう、振り返りや対話の時間を充実させるなど、キャリア教育のさらなる深化を図る必要がある。
		児童生徒	将来の夢や希望について話したり、考えたりしたことがある。	B	A	
		保護者	児童生徒は、自分の将来の夢や希望について話したことがある。	A	A	
		地域				
基本的な生活習慣	10	教職員	手洗いやうがい、「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣の育成に向けて、きちんと指導している。	A	A	昨年度と比べ大きな変化は見られなかった。 保護者の評価の中には「どちらかといえば当てはまらない」という回答も見られ、基本的な生活習慣の定着には個人差があることがうかがえる。基本的な生活習慣の確立は学習や心身の安定の土台となるものである。本校としても継続的に指導を行っているが、今後は家庭や寮と連携をより一層深め、生活リズムの安定に向けた取組を充実させていく必要がある。
		児童生徒	手洗いやうがい、「早寝・早起き・朝ご飯」が毎日できている。	A	A	
		保護者	児童生徒は、手洗いやうがい、「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣が身に付いている。	B	B	
		地域				
	11	教職員	進んで、気持ちの良い挨拶や礼儀正しい行動ができるよう、きちんと指導している。	A	A	保護者や地域の回答の中には「どちらかといえば当てはまらない」という意見も見られた。 地域からの記述回答には「進んで挨拶ができるようになった」という前向きな声がある一方で、「こちらが挨拶をする」と返答はあるが、積極的な挨拶は見られない」という意見もあった。児童生徒の自己評価は概ね高いものの、受け取る側との間に認識の差が生じている可能性がある。今後は、学校生活や地域活動を通して挨拶や礼儀の意味を改めて考える機会を設けるとともに、地域の中で実践できる場を増やし、より主体的な挨拶が身に付くよう指導を継続していく必要がある。
		児童生徒	気持ちの良い挨拶や、礼儀正しい行動ができている。	A	A	
		保護者	児童生徒は、気持ちの良い挨拶や礼儀正しい行動ができている。	B	A	
		地域	児童生徒は、進んで、気持ちの良い挨拶や礼儀正しい行動ができている。	B	A	
	12	教職員	交通ルールやマナーを守って、安全に過ごせるよう、きちんと指導している。	A	A	概ね良好な評価であった。 本校のある島内には信号機がなく、車の往来も多くはない。そのため、交通ルールを守る場面が日常的に多いとは言えず、安全意識が十分に可視化されにくい環境にあると考えられる。今後は、児童生徒自身が安全について主体的に考えられるような啓発活動を充実させていく必要がある。
		児童生徒	交通ルールやマナーを守って、安全に過ごせるようにしている。	A	A	
		保護者	児童生徒は、交通ルールやマナーを守って、安全に過ごすことができている。	A	A	
		地域				
生徒指導	13	教職員	アンケートや教育相談などを活用し、全教職員が協力し、いじめや不登校問題の早期発見・対応に取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ地域の評価が向上している。一方で、児童生徒の回答の中には「どちらかといえば当てはまらない」という意見も見られた。 本校では、毎日の何気ない会話や日記指導、「心のアンケート」、SSW（スクールソーシャルワーカー）による教育相談などを通して、児童生徒の悩みや変化の把握に努めている。しかし、児童生徒自身が十分に相談できていると感じられていない可能性も考えられる。今後は、より一層、安心して話せる環境づくりを進めていきたい。
		児童生徒	困ったことがあったら、保護者や先生に相談している。	A	A	
		保護者	学校は、いじめや不登校問題、その他の問題に対して早期発見・早期対応に取り組んでいる。	A	A	
		地域	学校は、いじめや不登校問題、その他の問題に対して早期発見・早期対応に取り組んでいる。	A	B	
清掃・奉仕活動	14	教職員	清掃活動や社会奉仕活動、ボランティア活動などの大切さを教え、一生懸命できるように指導している。	A	A	本項目については、昨年度と比べ地域の評価が下がった。 児童生徒や保護者の回答では概ね肯定的な評価が見られる一方、地域の評価では「どちらかといえば当てはまらない」という回答も見られた。 本校では、日常の清掃活動や花の手入れに加え、社会奉仕活動やボランティア活動にも取り組んでいるが、今後は、活動の質を更に高めていきたい。
		児童生徒	そうじや、他の人の役に立つ行動を一生懸命している。	A	A	
		保護者	学校は、きちんと掃除や花の手入れができおり、校庭や校舎がいつも美しく整備されている。	A	A	
		地域	学校は、きちんと掃除や花の手入れができおり、校庭や校舎がいつも美しく整備されている。	B	A	
施設設備	15	教職員	非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実にも努めている。	A	A	全体として良好な評価であった。 今年度は、火災を想定した避難訓練の際に消火栓からホースをつなぎ、実際に放水する訓練を実施した。児童生徒の回答には「どちらかといえば当てはまらない」という意見も見られたことから、訓練の目的や意義を十分に実感できていない児童生徒もいると考えられる。今後は、訓練を形だけの活動に終わらせるのではなく、振り返りや事前指導を充実させたい。
		児童生徒	地震や火事のときや、不審者に出会ったときの安全な逃げ方を知っている。	A	A	
		保護者	災害や不審者に対して、安心して子どもを預けられる安全面に配慮した学校だ。	A	A	
		地域	災害や不審者等に対して、安心して子どもを預けられる安全面に配慮した学校だ。	A	A	
保護者・地域との連携	16	教職員	家庭や地域と適切に連携を図ったり、学校の取組を理解してもらうための情報発信に取り組んでいる。	A	A	全体として良好な評価であった一方で、「学校からのプリントをきちんと保護者に渡せていない」という回答も見られた。 今後は、学習習慣の確立とも関連付けながら、プリントの受け渡しを含めた家庭との連携方法を見直し、より確実に情報が届く仕組みづくりを検討していく必要がある。また、学校の取組がより伝わるよう、発信内容や方法についても継続して改善を図っていく。
		児童生徒	学校からのプリントを保護者にきちんと渡している。	A	A	
		保護者	学校だよりやホームページなどを通して、学校の取組の様子を把握することができている。	A	A	
		地域	学校だよりやホームページなどを通して、児童生徒の様子を把握することができている。	A	A	